

きょうのごはん Vol.4

2011.12.29 はっころ



冬はコタツで星のカービィ！ 皆様初めまして、あるいはお久しぶりです。ハガネカービィと申します。本日はサークル『カービィ小説M.L出版部』にお立ち寄り頂き、ありがとうございます！

カービィ小説M.L出版部は『星のカービィにまつわる二次創作小説を発表し合うメーリングリスト』であるカービィ小説M.L（以下KNML）の派生サークルです。KNMLの活動の場はWebですが、折角のカービィ小説をもっと沢山の人に楽しんで頂きたい、願わくば仲間を増やしたい、そして更に色々な作品に出会っていききたい、という思いから、こうしてオフライン活動を開始させて頂きました。以後お見知り置き頂きますと幸いです。

さて早速ですが、小説を楽しんで頂くならやはり直接読んで頂くに勝ることはない、ということと、次のページからは短編を丸ごと一作掲載させて頂きました。今回の掲載作品はKNMLにて『最近の新作カービィ（毛糸Wii）』のお題で短編募集を行い、人気投票の末に選ばれた作品になります。多種多様なカービィ小説の中の一作品ではありますが、お楽しみ頂けましたら嬉しいです。

それでは、どうぞ。

発行物情報

新刊 『ながれぼしのおもいで』

2011.12.29 発行/A6文庫サイズ/208P/800円

星のカービィ短編小説アンソロジー第2弾。小説8篇とイラスト30点を収録。

『食欲の春』

2011.3.20 発行/A5サイズ/40P/300円

有志による星のカービィオールキャラ漫画&小説&イラスト本。総勢6名が参加。

ぼくらはカービー

啓太

「これって……」

気がついたとき、ぼくは目の前の光景にびつくりしてしまった。カービーが9人寝ている。

……というか、もちろんぼく自身もカービーなわけだから、この場にカービーが10人いるということになる。

最後に覚えているのは、ぼくのからだに雷みたいな衝撃が走ったことだ。たしか、今日はらっぱを歩いてて空が変な雲でいっぱいになって、それから……。

「あ。」

ぼくは思い出して、思わず体がふるつとふるえた。あのドクロみたいな巨大な怖いもの。見

つけるやいなや、ぼくはそいつにやられてしまったんだ。そのときに多分、ぼくは分裂してしまっただらしい。

「こっしちやいられない!」

ぼくは、急いでほかのカービーを起こして、すぐにも冒険に出発することにした。

「な、なんで!？」

ぼくは思わぬ答えにひっくりかえりそうになった。

ほかのカービーたちを起こして、かいつまんで事情を説明した。そして、一緒に出発しよう! ってよびかけた。みんな「ぼく」なわけだから、もちろん賛成してくれると思ったのに。

「だいたいお前がぼーっとしてたから、ぼくた

ちは分裂しちゃったんじゃないか。きみとは一緒に行きたくないね。」

「そうだな！ それに大勢でいくより、1人で果敢に戦ったほうがカッコいいじゃん！」

1人目と2人目のカービィの言い分。あ、ぼくもカービィだから、2人目と3人目かな？

……うーん、ややこしいな。とにかく2人の答えは「NO」ということだ。

「ぼくも1人でいるほうが楽だな、悪いけどさ。」

「つるむのは好きじゃない……」

4人目と5人目のカービィ。こちらの2人は、いわゆる『一匹おおかみ』タイプなのかな？

「すぐに出かけるのは得策じゃありません。しっかりと計画を立ててからじゃないと。」

そういつて、どこからもつてきたのか、巨大な本をぶつぶつ読みながら答える6人目。まじめそうだなあ。でも、計画って言ったって……。

その本を読み終えるのを待っている間に太陽とお月さまを何度見ることになるのやら。

「もう、みんなつれないわねえ。」

みんなの様子を見ながら7人目のカービィがぼくにいった。このカービィだけは、ぼくに協力してくれるらしい。よかった……。なんで女の子言葉なのかは置いといて。

「でも、それならそれでいいかもね。そしたらぼくたちは2人きりのランデブーよ（はあと）」

……きみ、本当にぼく？ もしかしてどさくさにまぎれて、どっかから現れてない？ こんなぼく、ぼくは知らない。

「あれ？」

ナナちゃん（7人目だからナナってよんで、と本人からいわれた）の視線をさりげなくよけたとき、ぼくは気がついた。1、2、3、4、5、6、7、……ぼくを入れて8人だ。最初は間違いない10人いたはずだったのに、2人足りない。

「あと2人は？」

1人目のカービィに聞いてみた。

「ああ、それなら、1人は『ぐずぐずしてられるか！』っていつてもう出発して、もう1人は『おなががすいたから』っていつて食べ物を探しにいったよ。」

!! なんだったって!?

ぼくは急いで走りだした。

それからしばらく2人をさがしてみたけど、みつけることはできなかった。分裂してしまつたとき、力も弱くなつてしまつたみたいで、走つても走つても前に進めない感じがする。ただただ、息が切れていくばかりだ。

そのうちぼくは石につまづいて転んでしまつた。いたた、あいかわらずそそっかしいな、ぼく。ぼくはとうとうその場に座りこんでしまつた。ほかのカービィはどうしているかな……。でも、こうしている間にまた宇宙は大変なことに……。

「……もういいよ、だったらぼくだってひとり
で……!？」

ため息をついたそのとき、ぼくの体は宙に浮

かんだ。いや、浮かんだというよりは何かにひつぱられた。

「な、何なの!？」

みると小さなドクロみたいなのが5ひきもあつまってぼくを上空に連れて行くこうとしている。きつとあの大きな敵の子分なんだ! このま

まだと連れ去られてしまう! 気がついたぼくはがむしゃらにドクロたちをふりほどこうとした。でも、全然力が足りない。そうしているうちにみるみるぼくの体は地上からはなれていく。

「……やつぱり、1人じゃ……」

ぼくがあきらめかけたそのときだった。

だれかがぼくの名前をよんだ。

だれかがドクロに石ころを投げた。

だれかがドクロの体にとびついた。

だれかがぼくの体をひっぱった。

だれかが落つこちたぼくの体をキャッチした。

だれかがぼくに、にこつと笑った。

その「だれか」はみんな「カービィ」だった。

「5ひきくらいじゃ足りないよな! ぼくらを倒すなら100ひきでも足りないさ!」

いなくなっていた8人目が言った。それを聞いて、ほかのカービィたちも笑った。みんなは上空に連れて行かれようとするぼくをみつけて、助けるために集まってきてくれたのだった。

それから五ひきのどくろは撃退された。あつけないほど、あつという間のできことだった。

1人よりも2人がいい、2人よりも3人がい

こんにちは、今回『ぼくらはカービィ』を書かせて頂いた啓太と申します。10人のカービィたちのお話はどうだったでしょうか。

「あつめて！カービィ」をプレイして、カービィたちそれぞれに性格があったらとても楽しそうだな、と思って書いてみました。この作品を読んで、その雰囲気伝わってくればとても幸せです。

今回の素晴らしい機会をくださったK N M Lのみなさん、そして読んでくださったみなさん、本当にありがとうございました！

啓太

『ぼくらはカービィ』、いかがでしたか？ もし

お楽しみ頂けたようでしたら、ぜひ奥付のアドレスからK N M Lを覗いてみて下さい。沢山のカービィ小説が、あなたをお待ちしております。

それでは、Webや次のペーパーで再会できることを願いつつ、失礼致します！ ハガネカービィ

◆ 奥付 ◆

きょうのごはん Vol. 4

2011. 12. 29 コミックマーケット 81 発行

カービィ小説 ML 出版部

(<http://www.knml.net/>)

小説本文：啓太 表紙：極餅

発行：ハガネカービィ

